

たかあいまんがんじ ぞうそん
14. 鷹合満願地蔵尊



◆所在地

東住吉区鷹合 4 丁目 3 番 12 号

◆概要

毎年 8 月 23 日から 24 日にかけて行われる地蔵盆では、町内の人々が地蔵像を洗い清めて新しい前垂れを着せて飾り付け、提灯をつけ、花や菓子、果物を供える。子ども達はこれを楽しみに地蔵巡りをし、地蔵前の席で供養の菓子や手料理などをいただく。「盆踊り」もこの時期に多く行われている。

※現在、4 つの世話グループにおいて、毎年当番による持ち回りで地蔵盆を運営している。

せいがんじ ぞう
15. 清岸地蔵



◆所在地

東住吉区湯里 1 丁目 19 番 29 号

◆概要

このお地蔵さまは明治初年のある日、畑を耕しているとクワの先にコチンと当たったものがあり不思議に思っ て掘り出してみるとお地蔵さまだった。お地蔵さまに清岸童女と刻んであることから清岸地蔵と呼び、現在の地に祀られている。(南百済小学校発行「歴史的に見た南百済」より引用)

毎年 8 月 23 日から 24 日にかけて行われる地蔵盆では、町内の人々が地蔵像を洗い清め、子どもたちの健やかな成長を願った提灯を飾り、花や菓子、果物を供えている。

また、子どもたちも提灯などの飾りつけや地蔵盆のおさがりを近所へ配る「お配り」の手伝いをしている。

16. たかあいじんじゃ すさのおのみことじんじゃ
鷹合神社 (素盞鳴尊神社)



◆所在地

東住吉区鷹合 4 丁目 5 番 22 号

◆概要

鷹合神社は、当初、鷹飼堂(たかかいどう)と呼ばれ、祭神は午頭天王(ごずてんのう)であった。明治 5 年(1872 年)に村社の資格を与えられ、地名にちなんで鷹合神社と改められた。住吉神社の旧神官青蓮寺という家の記録の中に、延徳元年(1489 年)8 月云々、鷹合の祭り云々とあるので、創祀はそれ以前と考えられる。

神社東南角の房本宅内に、鏡池という池がある。ある日、酒君が鷹の行方を見失い、各地を探しあぐねこの池のそばで思案にくれていたところ、かたわらの椎の大樹にとまる鷹の姿が水面にうつり、喜んでとらえたという伝説がある。

神社の敷地には、天照大御神を祭神とし、東方に位置する伊勢神宮を拜することを目的に建てられた、伊勢神宮遷拝所(昭和 13 年(1938 年)頃設置)がある。

境内にある「楠の古木」は、昭和 55 年(1980 年)10 月大阪市条例により「保存樹林」としての指定を受けている。

17. ながいこうえん
長居公園



◆所在地

東住吉区长居公園

◆概要

戦後当初は、競馬場(大阪競馬場)と競輪場(大阪中央競輪場)が設置されていたが、競馬は昭和 34 年(1959 年)、競輪も昭和 37 年(1962 年)に廃止された。昭和 34 年(1959 年)から本格的な都市公園として整備され、球技場・競技場では平成 9 年(1997 年)国民体育大会(なみはや国体)、平成 19 年(2007 年)世界陸上が開催され、Jリーグ・セレッソ大阪がホームスタジアムとして使用している。公園内ではウォーキングやランニングする姿が多く見られ、長居ユースホテルには世界中から宿泊に訪れている。自然史博物館・植物園などには珍しい展示物や植物が数多くあり、見学の人でにぎわっている。

敷地内にある花と緑と自然の情報センター(平成 13 年(2001 年)4 月オープン)では、大阪の自然に関する各種情報の蓄積・発信を行っている。

18. 含松山 臨南寺



◆所在地

東住吉区長居公園1番32号

◆概要

以前は、国鉄(JRの前身)が臨南寺を駅名とした程の広大な(約33,000㎡)森を有する禅寺(曹洞宗)である。現在は森林の大部分は姿を消し、楠や椿・山茶花(さざんか)・金木犀等の樹木が僅かに残り、当時の面影を留めている。境内には樹齢700年の椎の大木があったが、昭和25年(1950年)のジェーン台風で倒れてしまった。今は万代池に住む白蛇と夫婦が兄弟の関係にあると云われた白蛇が宿る神木として地上に横たえられ、現在も祀られている。本堂内には、ご本尊・釋迦牟尼(しゃくむに)佛座像、弁財天なども祀られ、また、山門前に「葷酒(くんしゅ)山門入るを許さず」の石碑やその奥に馬頭観音碑がある。

大坂代官と天草代官を歴任した鈴木重成が、先祖を弔うために、正保2年(1645年)この地に建立した。現在は葬儀会館や永代供養の合同墓のがつしょう園マトリもある。

19. 庚申街道 (旧中野駅付近)



◆所在地

東住吉区西今川4丁目、針中野1丁目~2丁目

◆概要

庚申街道は四天王寺南大門から南下し、庚申堂(四天王寺庚申堂)を過ぎ東南方へ蛇行しながら文の里を通り、桃ヶ池の北端で東に折れ、旧北田辺村の北辺(この通り)を横断する。そこからさらに東へ駒川を越え今川で川沿いを南下、針中野(旧中野村)、湯里(旧湯谷島村)、旧住道村を過ぎ、大和川に突き当たると川沿いに東へ古市街道と出会う明治橋北詰(旧川辺村)に至るといいう街道である。庚申街道と南海平野線(大正3年(1914年)から昭和55年(1980年)まで)が交差する場所に中野駅があった。駅の北側は大正末期頃から市街化がはじまり、その頃の名残が銅板張の町屋などにうかがえる。駅の南側は古からの街道の雰囲気がある。

20. なかいじんじゃ 中井神社



◆所在地

東住吉区針中野 2丁目 3番 58号

◆概要

中井神社は、三代実録(901年)という書物に摂津の国「田辺東神(ひがしかみ)」と記されており、古くは、ご祭神にちなんで「牛頭天王社(ごずてんのうしや)」とよばれていた。その昔、社前に清水の湧く井戸があり、人々は「汚れ(けがれ)のない霊水」として大切にしていたので、中野村の井戸の有るところのお社として、明治時代の初めに中井神社と改められた。(中井神社発行の神社暦による)中井神社の東神に対し西神が山阪神社といわれている。

境内に、根元 5m ほど残った榎(えのき)は、世に異変のあるときは必ず夜間に轟音がすると言い伝えられていた。現在、白龍社(はくりゅうしや)のご神木として祀られている。また大阪市の保存樹林に指定された、大楠、公孫樹(いちよう)、メタセコイヤ、小賀玉木(おがたまのき)がある。

元旦未明には初詣の参詣者に、干支いりの「かわらけ」で、お神酒が授与され、毎年除夜の鐘が鳴り出すと長い初詣の行列ができる。

21. ぶつがんじ 佛願寺



◆所在地

東住吉区針中野 2丁目 3番 59号

◆概要

浄土真宗、仏光寺(ぶつこうじ)派に属し慶長4年(1599年)開基。

天堂山の山号は、昔、近くを流れていた天堂川(天道川)に由来しているのではないかとされている。

山門の前(西側)には庚申街道が通っている。

22. はりなかのなかのはり はりなかのなかのしょうにはり
針中野中野鍼・針中野中野小児鍼



◆所在地

東住吉区針中野 3 丁目 2 番 17 号

◆概要

針中野中野鍼・針中野中野小児鍼は、平安時代の延暦(782~805年)の頃に設立された、「中野降天鍼療院(なかのあまくだるはりや)」がその屋号である。平安時代から一子相伝を守り、男児が恵まれない時は、女性も当主としての鍼灸術を習得して、現在に至っている。

明治の頃、第41代目新吉氏は医師の資格を取得された上で、西洋医学を取り入れて独自の鍼法を築かれたので、近畿一円から「中野鍼まいり」として、一日500人以上の人々が殺到し、屋敷内に遠路の来館者を泊める宿舎も建てられていた。

大正3年(1914年)に南海平野線が開通した時には、中野駅から鍼院まで7ヶ所の道辻に石の道標が建てられた。大正時代に中野家41代目が大阪鉄道(現近鉄南大阪線)の開通に尽力し、そのお礼として大正12年(1923年)の開通時には最寄りの駅名を「針中野」としたといわれている。現在も駅名が継続され、地名となって残っている。

中野鍼の北東にある北向き地藏尊は、地元の要望があり、敷地内から現在の場所へ移したものである。

23. まつばらしゅうたく つるがおかけいえいち
松原住宅 (鶴ヶ丘経営地)



◆所在地

東住吉区山坂 3 丁目~4 丁目

◆概要

大正3年(1914年)4月に南海平野線が開通し、田辺停留所ができた時に住宅開発が始まり、昭和4年(1929年)7月に阪和線が和泉府中まで開通し、南田辺駅や臨南寺駅ができたので、この沿線での住宅建設が次第に盛んとなった。その頃の住宅建設は宅地の間に並木が植えられて、大変風情のあるもので、松原住宅の東西や南北の道路には、梅檀(せんだん)通、銀杏(いちょう)通、青桐(あおぎり)通など樹木にちなんだ名前が付けられていた。

また、松原住宅の中央部の交差点は円形に広くとられ、かつてはここで、バスが転回していた。

しかし、この並木も次第に切り倒されて、今は昔年の面影を失ったが、ところどころに当時の樹木が残されている。



24. あまみこそじんじや 阿麻美許曾神社



◆所在地

東住吉区矢田 7 丁目 6 番 18 号

◆概要

旧狭山西除天道川は参道の東側をジグザグに北上していたと思われ、大和川の開削後は干拓されて、元の川は西除川として、浅香山の方向に付け替えられている。現在の祭神は素戔鳴尊(すさのおのみこと)、天児屋根命(あまのこやねのみこと)、事代主命(ことしろぬしのみこと)と一般に知名度の高い神様が並んでいるが、金剛寺本では 1 座とあり、主祭神名は不明である。

拝殿は文久3年(1863年)建造のもので、本殿は独特の阿麻美造で昭和35年(1960年)に再建された。樹齢500年の楠木の群は大阪市条例で保存樹林に指定されている。手洗舎(ちょうずしゃ)の東側に「行基菩薩安住之地」の石碑が建っている。

25. ほうらくじ 法樂寺



◆所在地

東住吉区山坂 1 丁目 18 番 30 号

◆概要

真言宗泉涌寺(せんにゆうじ)派大本山紫金山(しこんざん)小松院法樂寺(田辺不動尊)が正しい名称で、昔から「田辺のお不動さん」の名で親しまれている。

平家の棟梁・平重盛公の創建。創建の趣旨は、保元・平治の乱(親、兄弟が敵となり戦った)で戦死した霊を怨親平等(おんしんびょうどう)の精神で祀るためであり、源為朝の念持仏・如意輪観音菩薩が安置された。本堂の建物は書院造り(移築)である。

梵語(サンスクリット語)研究、人の道を説いた『十善法語』で知られる慈雲尊者(1718~1804)は13歳の時、ここで出家している。

山門と本堂の間には力強い木組みの三重宝塔が樹齢一千年近い楠の大木と相対し、法樂寺の象徴となっている。

また、境内には、書家で恩賜賞受賞作家の小坂奇石の作品四百点余を収蔵しているリーヴスギャラリー小坂奇石記念館がある。

本堂裏側には樹齢3~400年の松の大木のある庭園と茶室「法雲庵」があり、趣のある空間となっている。

26.

やまさかじんじゃ 山阪神社



◆所在地

東住吉区山坂 2 丁目 19 番 23 号

◆概要

山阪神社は一に田辺神社といい、三代実録にも掲載されている「田辺西ノ神」です。

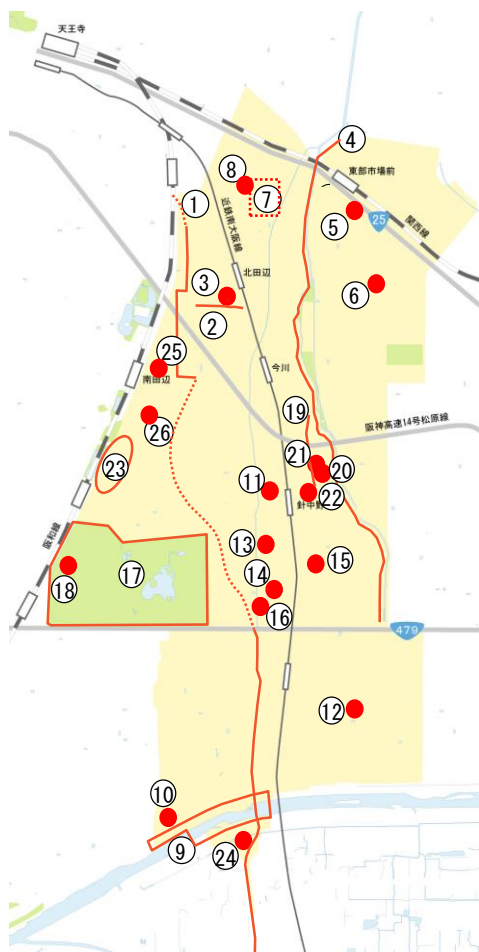
田辺の地名は、田辺宿禰(たなべのすくね)に関係ありといわれていますが、確証は詳かではありません。

天穗日命(あめのほひのみこと)の子孫が、この土地に住し、その祖神 天穗日命を祀って社殿を建立しました。さらに、その同族土師(はじ)氏たる野見宿禰命(のみのすくねのみこと)を合わせて祀られたのが当社の創めとされています。

御祭神は、天穗日命、野見宿禰命、猿田彦命(さるたひこのみこと)、素盞烏尊(すさのをのみこと)、宇賀御魂神(うがのみたまのかみ)です。

毎年 7 月の夏祭りでは、獅子舞の巡行、お囃子、御神輿の巡行、出店などで賑わっています。また、大相撲 3 月場所では、九重部屋の力士が稽古をおこなっています。

東住吉区の都市景観資源（分布図）



- ① 下高野街道
- ② 庚申街道沿いの旧北田辺村の町並み
- ③ 北田辺の大楠
- ④ 今川と今川緑道
- ⑤ 杭全交差点陸橋
- ⑥ 杭全住宅（平野西之町）および中町会館
- ⑦ 桑津環濠集落
- ⑧ 天神社（桑津天神社）
- ⑨ 大和川（東住吉区）
- ⑩ 枯木八幡宮
- ⑪ 駒川商店街
- ⑫ 中臣須牟地神社
- ⑬ 酒君塚古墳
- ⑭ 鷹合満願地藏尊
- ⑮ 清岸地藏
- ⑯ 鷹合神社（素盞鳴尊神社）
- ⑰ 長居公園
- ⑱ 含松山 臨南寺
- ⑲ 庚申街道（旧中野駅付近）
- ⑳ 中井神社
- ㉑ 佛願寺
- ㉒ 針中野中野鍼・針中野中野小児鍼
- ㉓ 松原住宅（鶴ヶ丘経営地）
- ㉔ 阿麻美許嘗神社
- ㉕ 法樂寺
- ㉖ 山阪神社

■都市景観資源とは…

地域みなさんに親しまれ、地域の景観を特徴づけている建造物、橋梁、樹木などの資源を、大阪市都市景観条例に基づき登録するものです。広く市民の皆さんに知ってもらい、地域の景観に関心を持ってもらうことにより、地域の特性を生かした景観づくりを進めていこうとするものです。

■大阪市都市景観条例(平成 10 年大阪市条例第 50 号)

大阪地域の景観の向上及び地域の特性を生かした都市景観の形成を目的として、その実現に向けて必要な基本事項を定めた条例です。市民や事業者みなさんに都市景観への関心をより高めていただき、魅力的な都市景観をつくっていくことをめざしています。

都市景観資源紹介 HP

<http://www.city.osaka.lg.jp/toshikeikaku/page/0000017850.html>

お問い合わせ先 大阪市都市計画局 計画部 都市計画課（都市景観）
〒530-8201 大阪市北区中之島 1-3-20（市庁舎 7 階）
電話 06（6208）7885